

本日の議題について

令和 2 年 3 月 5 日
東京大学総長 五神真

議題（１）サプライチェーン、観光等 について

- 新型コロナウイルスへの対応については、未来投資会議で検討や準備を進めてきた様々な分野のスマート化を、出来るものから素早く導入、活用すべき
- 大学関係では、学会のオンライン開催が一例。国内外で、重要な学会の中止や延期が相次いでいるが、卒業を控えた学生には、この時期の学会発表は人生でとても貴重な機会。
- その中で、オンラインで学会を開催するという動きが出ている。感染拡大のリスクを避けつつ、数百人単位で、発表と質疑ができる学会が実際に行われ、メディアでも紹介されている。
- 私も現場を視察したが、双方向の議論が支障なく行われている。また、参加者の参加状況や質疑の様子をリアルタイムで把握、記録でき、オンラインならではのメリットもあった。これはまさに **Society5.0** のポテンシャル。東京大学も協力し、様々な分野へ広げていく予定。
- GIGA スクール構想による初等中等教育のオンラインの活用促進、ローカル 5 G 推進の緊急性も一段と高まっていると言える。
- なお、中国は既に復活モードに入り、工場再開が急速に進んでいるとの情報もある。事態収束後に、中国との差がいつそう広がってしまったということがないように備えることも重要。

議題（４）環境・エネルギー について

- 現在の社会様式を前提として 2050 年のエネルギーミックスを議論するのは無意味。未来投資会議が示すべきは、環境やエネルギーの負荷低減を織り込んだ形で **Society5.0** の姿を具体的に示し、これを 2030 年までに実現するという「国の意志」を明確化すること。
- サイバー、フィジカル両空間における環境負荷の軽減と、セキュリティや信頼の確保を両輪として取り組む必要がある。
- 経済と社会の仕組みづくり、技術革新を三位一体で進めるべき。東京大学では、サイバー空間とフィジカル空間を一体として、人類の共通基盤、グローバル・コモンズと捉え、その開発や利用、管理の仕方を分野横断で研究する組織を立ち上げることとした。
- ゼロエミッションのみの追求は、国土環境等の制約でそもそも困難な国もある。スマート化や省エネ、あるいは新素材開発、農業や畜産など食料関係、さらにはライフスタイルや価値観の発信等、多様な貢献の組み合わせが重要。
- 世界のどの国もそれぞれの強みを活かして、多様な観点で参加できるようなインクルーシブなフレームワークと、ESG を拡張したような総合的な評価指標を開発する計画としている。
- 大学の総合知を活かした多様な指標を開発し、選択肢を広げる議論に貢献したい。